



# 日本福祉大学 国際福祉開発学部だより



## News Letter

## 15

### 「コロナ禍の1年半を振り返って」特集 ～挑戦したこと・勉強になったこと・今後に活かしたいこと～

吉村輝彦（国際福祉開発学部長）

2020年度から引き続き、2021年度の前期も、コロナ禍において、対面形式とオンライン形式を使った授業を展開することになりました。学部の学びの一環としての「ワールド・ユース・ミーティング」も、2年連続、オンライン形式で開催しました。この1年半、国際福祉開発学部では、このタイミングだからこそできることを前向きに捉え、できることを行ってきました。ICTを活用して、時間的な、物理的な制約を越えて学ぶことができること、オンライン形式を通じて、多様な人びととつながることができること、これまでの多様な人びととのつながりを活かしていくことができること、学部で学んできた多彩なコミュニケーション力やファシリテーション力をオンライン形式でも活かすことができること、そして、学部での学びには、そうした機会や可能性が多くあること、これらは、本学部ならではの学びです。「ワールド・コラボ・フェスタ2021」（愛知県国際交流協会等で組織される実行委員会主催）にもオンライン出展します。様々な人たちと、様々な場所で、ミライに向けて歩みを止めずに。

#### 国際福祉開発学部 学部長 吉村 輝彦

#### コロナ禍の18ヶ月で 工夫して成功したこと

様々なオンラインツールを試すことができたこと、オンライン上の場づくりを実践できたこと、できる限りオンライン形式の学びの場に参加したこと、結果的に、様々な人とつながったこと、そして、それがこれらにつながっていく予感を得られたこと。例えば、オンライン形式でのファシリテーション講座で、「この場は安心して話することができる」と言われたこと、そして、オンライン形式での学会のセッションの司会について、「素晴らしかった」と言われたこと等が励みになりました。



#### 普通の大学生活に戻ったら 活かしたいことは？

これからの新たな様式となる、オンライン形式ならではの機会や可能性を活かしていくこと、また、対面形式とオンライン形式をハイブリッドで組み合わせながら物事を進めていくこと、そして、結果として、対面形式の重要性を改めて認識できたこと。

#### コロナの「おかげで」学んだこと

オンライン形式の多様な場、そして、場づくりに関わることもできたこと、そこでの出会いから様々なつながりができたこと、自分の射程を広げることができたこと。時間的、物理的、そして、金銭的制約を超えて、様々な学びを広げることができました。



知多市朝倉団地のコミュニティ

ニュースレター

## 国際福祉開発学部「コロナ禍の1年半を振り返って」特集

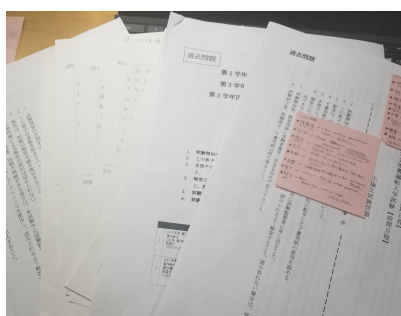
今回のニュースレターでは、学生や学部長を含む学部の教員、職員にコロナ禍で過ごした1年半について振り返りました。挑戦したこと、学習したこと、また、今後生活が少しずつ「普通」に戻りつつある「今」に活かしたいことについてまとめています。それぞれの立場で取り組みをしている学生や教職員の体験を掲載していますので、ぜひ読んでください！

### 国際福祉開発学部3年生 はやしだ かおり



#### コロナ禍の18ヶ月で大変だったことは？

私の場合は受験勉強ですね…私は大学3年生なのですが、編入生として今年入学しました。以前は専門学校で法律の勉強をしながら、大学編入の受験勉強を両立していました。絶対大学編入をしたいという思いが強かったので、学校の図書室や専門学校の近くの図書館で勉強することが多かったです。しかし、コロナが発生して学校がオンラインになったり、公共施設が使えなくなったりと、とても大変で不安な時期を過ごしました。ですが諦めずに頑張っ



受験勉強のための資料

て家でも勉強し続けた結果、国際福祉開発学部合格することが出来ました！！合格発表の日を今でも覚えています！！とても嬉しかった日です！

今思えばコロナがあったからこそ自分に甘えずに勉強をして目標が達成できたと思っています。今では最高に大学生活が楽しいです！！

#### コロナの「おかげで」学んだこと



自分の時間が増えたので、自分を見つめ直しました。本当のやりたい事や目標を達成するためにやるべきことは何なのかを考える時間を与えてくれました！

#### コロナ禍での国際福祉開発学部の魅力

短期留学みたいな感じでフィリピンの講師と英語のオンラインレッスンを受けています！with コロナでもこんなに大学生活を充実させることができます！！



#### 普通の大学生活に戻ったら活かしたいこと

遠方に住んでいる学生が大学に来られない場合、Zoomでの面談も可能となっていること。

#### コロナの「おかげで」学んだこと

学生の表情や反応を見られる対面授業のありがたさを実感していること。



### 国際福祉開発学部 教授 張淑 梅

#### コロナ禍の18ヶ月で工夫して成功したこと

オンライン授業の場合、学活から収集した感想文（質問）に個別でメール返信したり、まとめて本学の教育システムにアップして他の閲覧者にも共有するようにしたこと。

#### コロナ禍の18ヶ月で大変だったことは？

オンライン授業で用意したVTRを流している途中でパソコンがフリーズしてしまったこと。ITに頼る授業は良し悪し！

## 国際福祉開発学部 担当職員のみなさん



国際福祉開発学部担当の榎本さん、中嶋さん、今枝さん

### コロナ禍での国際福祉開発学部の魅力

- ・ コロナ禍でも絶やさない国際交流
- ・ ICT スキルの高さ（Google クラウドスループーム等）を利用した双方向交流等）

## コロナの「おかげで」学んだこと

Zoom の活用方法！

### 普通の生活に戻ったら活かしたいことは？

海外協定校とのオンライン交流はとてもよかったと思います。コロナ禍で海外協定校とオンラインでの交流を試みたところ、お互いの距離が近く感じられ、双方の学びを実現することができました。

このノウハウを活かして、コロナ収束後も協定校とのオンライン交流の機会を創出していきたいですね。

## 国際福祉開発学部 講師 Gary A. Kirkpatrick

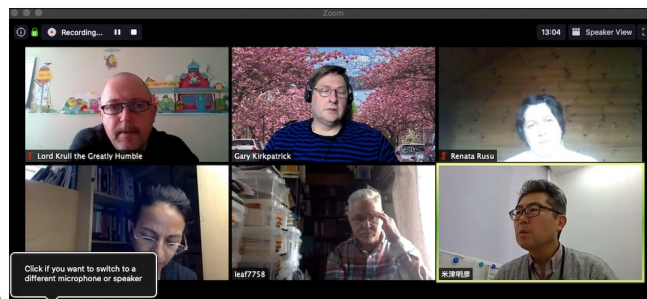


### Tell us something you feel **went well** during your pandemic teaching?

What made our pandemic threatened online and in person classes work? I'd like to say it was because of my well-planned lessons, interesting materials, and sparkling personality. While those all helped, it was my students, who worked so well together, that made all of my classes, online, and eventually in person but suitably distant, masked, and sterilized, go well. In all my classes communication is central. We are studying a language after all. Languages aren't sterile subjects. Languages are a living, breathing, part of our lives. Languages are a tool for contacting others. As a teacher, my main job is to provide opportunities for students to use and improve their English with feedback from me. So, Zoom rooms were the best aspect of our online classes. Students working together in small groups whether online or in person were the key to success.

### What are your **hopes** for a return to "normal" university life post-pandemic?

Once we get the pandemic behind us, I hope to continue to build the kinds of relationships through face-to-face classes, actively learning together using English as the medium of communication.



Working together online

### Is there something you **learned** during the pandemic that you'd like to **continue in the future**?

Despite all the awfulness of the pandemic, I found a single positive. In my case, working from home with my family helped to cement our family ties. My daughters discovered old hobbies and found time to play with each other. They also stepped in and made contributions to our daily life by making lunch while their parents were working on Zoom. The pandemic brought us together.

### コロナ禍の18ヶ月で大変だったことは？

コロナが始まったとき、緊急事態宣言になってアルバイトの時間が短縮されて困っていました。落ち込んでいて夜も眠れなかったり、生活費も心配で何もしたくない気持ちになりました。コロナにかからないように気をつけながら心配することや考えすぎることが多くて、元気でいても半分くらいは病気になるみたいになってしまいました。言葉がでないぐらいに大変でした。

### 普通の大学生活に戻ったら活かしたいこと

最初は外に出かけるとき、マスクをするのに慣れてなくて忘れたのが多かったです。今は服みたいに忘れないようになりました。マスクをしたり、手を洗ったりすることは健康や体のためにいいから、コロナが終わってもインフルエンザや他の病気にかからないために続けてやるべきだと思います。



国際福祉開発学部 1 年生  
モーモーウー  
(ミャンマー出身)



### コロナの「おかげで」学んだこと

コロナの「おかげで」経験したことは、アジア諸国の大学生、高校生との英語プレゼンテーションコンテストの「ワールドユースミーティング」です。コロナ禍で海外に行かないし、海外からのお客さんも迎えられませんが、オンラインで交流ができたのですごく楽しかったです。また、実際に海外に行かなかったのでお金や時間もかからなくてよかったと思います。

国際福祉開発学部 教授  
小國 和子



### コロナの「おかげで」学んだことは？

学外共同研究で、コロナ理由で途中で帰国せざるをえなかった留学生を集めた対談をしたのですが、皆さん、当初の目的を達成できなかったことよりも、これまで経験したことのないような社会の変化を自分の目で見て、自分で自分の行動を決める経験をしたことが力になっていて、「オンラインになって、対面のときほど周りが気にならなくなったので、自分のやりたいことを真摯に考えられるようになった」と。日本社会は周りの目をととても気にするので、なるほど、と思いました（本になるそうなので乞うご期待）。



### コロナ禍の18ヶ月で工夫して成功したことは？

やはり一番は、Zoom 等オンラインツールを使って、これまでより簡単に海外とのやりとりができたこと、学生との個別面談が可能になったことです。対面でしか感じられないことも多いけれど、地方在住者（私は北陸の福井県に住んでいます）としては、オンラインツールの広がりにはものすごく感謝しています。例えば、病気で入院しないといけない学生が、ぎりぎりまでオンラインで授業に出られたりできたのはよかったです。それと、日頃対面の大教室では手を挙げて意見をいう勇気が出せない人でも、気軽にチャットで感想を寄せてくれたりするのはとても嬉しかったです。

### 「ウィズ・コロナ」の中での国際福祉開発学部の魅力は？

物理的に海外に行って異文化に触れる機会が激減する中で、大学の日常生活の中で、多様な学生とともに多文化共生とは何かを日常的に考えようとすれば考えられることでしょうか（でも、考えようとしなければ無視して通り抜けることもできます。やるかどうかは学生の皆さん次第かと）。あとは、もともと唯一解ではない別の答えもあるよ、ということと一緒に考えようとする先生方が多い学部なので、コロナでいろんなことが制約されても、「じゃあなにができるだろう」って前向きに考えられるのがいいと思います。

## 国際福祉開発学部 教授 千頭 聡



### 「ウィズ・コロナ」の中での 国際福祉開発学部の魅力は？



本来であれば、千頭ゼミでは学外とのいろいろな方との出会いを作り、大切にしてきました。

コロナのせいで

そういったチャンスを作ることができませんでした。その分学生同士がゆっくりと議論することができました。そのことをポスターなどの作成に反映できたと思っています。お互い人の意見を聞き、自分の意見をいうという、前向きなコミュニケーションをとることができる環境は本学部の魅力の一つだと思います。コロナ禍だからこそその魅力を発揮できたのではないかな、と思います。

### コロナ禍の18ヶ月で大変だったことは？

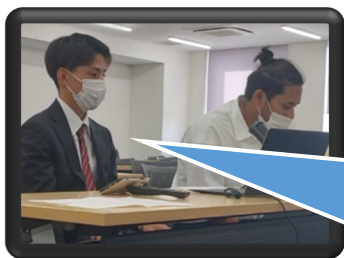
コロナ感染拡大が注目し始めた頃、カナダ、イギリス、オーストラリア、ニュージーランド、フィリピンなどに留学中だった学生が、ひょっとして飛行機が飛ばなくなるという噂の中で、留学を中断して帰ってくるか、留学をやり通すのかの判断を、極めて短時間の間に決断をせざるを得なくなりました。当時はZoomを使って、それぞれの留学先にいる学生とどうしようね、という話をよくしていました。逆にいうと、4月ごろに留学を中断して日本に帰ってきた学生の学習意欲をどう維持することに腐心した覚えがあります。

### コロナ禍の18ヶ月で工夫して成功したことは？

国内でも人に会うのが躊躇われたので、人に会わずにゼミのテーマであるSDGsの普及を進めるために、東海市の助成金をいただきながらポスター作りやパンフレット作りに取り組みました。最後まで留学できなかった学生は鬱憤を晴らすかのように真剣に議論をし、いい成果を生み出しました。



## 学生に聞いてみました:「ウィズ・コロナ」での本学部の魅力は？



引地健太 (1年生)

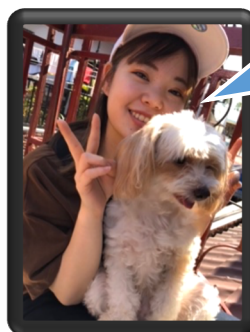
コロナ禍で入学しました！

海外とオンラインで繋がることができることや、地域で何かに取り組むことが気軽にできる環境があることです。

佐々木瞳歌 (4年生)

コロナ禍で就職できました！

日本と海外の行き来が難しい今ですが、留学生が多いので留学生の国の文化や、政治などを生で聞ける所です。



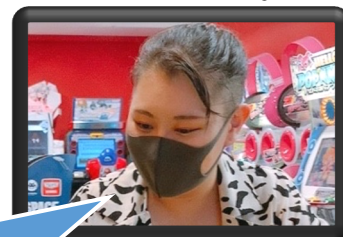
コロナ禍で旅行に行けない中でも、いろんな国籍の人と会えるのはこの学部の魅力だと思います。



小宮山実来 (3年生)

コロナ禍で、オンライン学習支援ボランティアをしました！

もともと小さな学部なので、人と直接関わることを大事にしているところだと思います。



吉原里美香 (4年生)

コロナ禍で就職できました！

国際福祉開発学部 助教  
田中 真由美



コロナ禍の 18 ヶ月で  
工夫して成功したことは？

- (1) Zoom を活用して以下の取り組みを実施しました
  - ・ロシアや韓国、ニューカレドニアの大学生と日福生のオンライン交流会
  - ・「国際フィールドワーク I」の活動の一環としての、海外からの生中継授業や料理教室の LIVE 配信
  - ・学生によるベトナムにいる学習者への日本語ボランティア
- (2) 留学生にとってはスライドのみの授業ではノートを取りにくいということを聞いたので、授業後に見返せるように、授業で使ったスライドを Google Classroom にアップするようにしました。
- (3) 遠隔授業で学生の理解度が把握できないので、授業後に Google Form を使って毎回確認テストを実施しました。

普通の大学生活に戻ったら活かしたいこと

Zoom 等を使うことで遠かった海外との距離が一気に縮まりました（その代わり時差の問題はある）。このことは失うことが多かった

コロナ禍で得た唯一のメリットと言えそうです。今後コロナが収束しても、海外とのオンライン交流は続けていきたいと思っています。



コロナ禍の 18 ヶ月で大変だったことは？

電車通勤が怖いので車通勤にしたら体重増加に歯止めがかかりません。ならば自転車通勤をしてみようかと自転車を購入しましたが、通勤に疲れてしまい仕事も家事もまなりません（笑）



「ウィズ・コロナ」の中での  
国際福祉開発学部の魅力は？

海外に出かけていなくても留学生を通して異文化を学ぶことができる。

コロナ禍の 18 ヶ月で大変だったことは？

授業がオンラインになったので、友達に頼ることもできなく自分で考えて行動しなければならませんでした。授業もたくさん履修していたので、課題が多くてこなすのが大変でした。また、フィールドワークを実施しようと思った時にコロナの影響で受け入れてもらえないところがあったり、実際に受け入れてもらえたとしても緊急事態宣言が出たら出入りできなくなったりして、思うように行動ができなかったことが大変でした。

「ウィズ・コロナ」の中での  
国際福祉開発学部の魅力は？

先生と学生の距離が近く、大学に行けなくても困ったことがあれば LINE や Zoom で相談することができます。



国際福祉開発学部 3 年生  
坂下 瑞萌

コロナの「おかげで」学んだこと



フィールドワーク先のオイスカ中部日本研修センターで、日本に入国したばかりで隔離中の外国人実習生の世話をしたり、コロナの影響で自国に帰国できない実習生と友達になり、海外に行けなくても国際交流ができました。

### コロナ禍の18ヶ月で大変だったことは？

先生や友達に会えなかったり、たとえ会ったとしても、マスクで半分の顔しか見られなくて、マスク外したらだれがだれかわからなかったり貴重な授業体験、海外で学べる国際フィールドワーク、思い出がたくさん作れるはずだった日本語学校の卒業旅行などのチャンスを失ったりして本当に残念で大変だということがたくさんありました。

### 普通の大学生活に戻ったら 活かしたいことは？

自粛の間に自己改善のためにE-bookやPodcastなどで新しい知識を習得していました。もし、昔のような大学生活に戻ることができてもこの勉強の仕方は続けたいです。



### 国際福祉開発学部2年生 ドティホンクエン (ベトナム出身)



コロナの中でも、国際福祉開発学部では世界につながるチャンス、世界を知るチャンスが非常に多いという魅力があります。国際的な友達作りができる環境ができているのも大好きな所です。

### コロナの「おかげで」学んだこと



1年生では、「国際フィールドワークI」で海外に行く予定でしたが、コロナウイルスの影響で行けず…非常にながかりしていた私たちでしたが、先生方の人脈と、留学生が沢山いるという日福の環境を最大限に活かし、キャンパス内で海外の雰囲気を感じられるフィールドワークが行われました。留学生による出身国の紹介や、海外の大学生とのオンライン交流会、そして様々な国の言葉を話し、サルサやサンバを踊り、海外料理のレストランのお弁当を食べ、家に帰ってからは自分で海外の料理を作って食べる。本来の「国際フィールドワークI」では、自分で希望した国に行き学習するため、関わる国はひとつです。しかし、今回のフィールドワークで私たちは、2週間で15カ国もの国を旅しました。コロナのために、行けなくなってしまった場所も、会えなくなってしまった人も沢山いると思います。しかし、オンラインが当たり前になった今の方が、世界との距離はぐっと近くなっている気がします。遠くにいる、まだ出会っていない友達に会うことは思っていたよりも簡単で、国を越えて繋がることの温かさや嬉しさは言葉では言い表せません。コロナ禍の大変な時期ではありますが、このような学びができたことで、今の大学生活をアクティブに過ごせています。

### 国際福祉開発学部2年生 閨間 詩音梨



### コロナの大変だったことは？

オンライン授業で大学生活がスタートしたので、履修登録の仕方が分からなかったり、それを相談する友達もいなかったりと初めは本当に心細かったです。オンライン授業の中のブレイクアウトセッションの時間を利用し、何とか友達との親睦を深めたり、画面越しにQRコードを写しあってSNSを交換したりと、今までに経験したことのないような友達作りに戸惑いましたが、初めての対面授業でみんなにあった時の「ああ！本物だ！！」とみんなで盛り上がった瞬間がとても感動的でした。



## 国際福祉開発学部 准教授 カースティ 祖父江



### コロナ禍の18ヶ月で大変だったことは？

基本的に単身赴任で大学に来させていただいているので、何よりも2年間ほどイギリスにいる家族に会えていないのは辛いです。イギリスにいるとき、特に休みの日に湖水地方の草原を愛犬と一緒にぶらぶらと散歩をすることも大好きですが当然それもできなくて寂しいです。しかし、留学生ももちろんのこと、日本の学生や友人もほとんど帰省できず、同じ状況に置かれていたので、むしろ、自分だけが文句を言っていられないと思いました。幸い高速インターネットが使える時代ですから、Zoomなどを使って犬を含む(!)家族の顔はいつでも見られて、取ってラッキーだと思っています。



### 普通の大学生活に戻ったら 活かしたいことは？

2020年4月まで電車通勤をしていましたが、混んでいる通勤電車に乗ると感染するリスクが増加すると思い、自転車通勤に踏み切りました。以前、カンボジアのフィールドワークに参加した時の自転車移動に伴う開放感が印象的で、自転車を買いたいと思っていました。しかし、コロナ禍が起こらなければ、きっと行動に移らなかったと思います。今は、朝晩の通勤時間がとても楽しみで、ずっと乗り続けたいと思います！



### 国際福祉開発学部でインスタ始めました！

@nfu\_kokusai で検索してみてください。

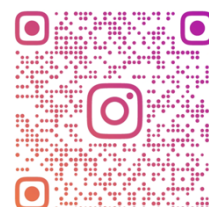
- 学生の声
- 授業風景
- 国際交流の報告
- 卒業生の進路
- ゼミ活動の紹介
- オープンキャンパスの案内など

良かったらフォローしてください！

#日本福祉大学 #国際福祉開発学部

#nfu #iwd #春から nfu

[www.instagram.com/nfu\\_kokusai](https://www.instagram.com/nfu_kokusai)



NFU\_KOKUSAI

### 編集後記

今まで体験したことのない非常事態でしたが、国際福祉開発学部では置かれた状況を前向きに変え、オンラインを活用した様々な取り組みを展開してきました。その成果は学生たちのふりかえりや感想からもうかがえると思います。

2021年度の後期現在、国際福祉開発学部のほとんどの授業が対面に戻り、新型コロナウイルスの感染状況を見ながらではありますが、今後は学生、教職員とも同じ空間にいられる楽しさを最大限に活かしながら学生の多様な学びを、みんなで力をあわせて取り組んでいきたいと考えています。

国際福祉開発学部の教育・研究にご関心をお持ちの方は、いつでも遠慮なく東海事務室にお問い合わせください。(担当:カースティ)

発行人：日本福祉大学 国際福祉開発学部

〒477-0031 愛知県東海市大田町川南新田 229番地

TEL. 0562-39-3811 FAX. 0562-39-3281

編集人：国際福祉開発学部 学部長 吉村 輝彦

問合先：東海事務室 国際福祉開発学部担当 ([kokusai@ml.n-fukushi.ac.jp](mailto:kokusai@ml.n-fukushi.ac.jp))



NFU\_KOKUSAI

